

尾崎貴美子¹⁾ 長田 淳一²⁾ 広岡 絹代¹⁾ 斉藤 信子¹⁾
南本 幸子¹⁾ 湯城佳代子¹⁾ 多田 春美¹⁾

1) 小松島赤十字病院 内科外来

2) 小松島赤十字病院 内科

要 旨

当院では、院外医療施設と病診連携を急速に推進しているが、それをスムーズに行うためにも、並行して院内での各科の緊一な連携が必要と考えられる。

殊に患者層の高齢化が進む中、多くの患者が複数病態を持ち、多くの診療科に同時に受診している現状は、将来更に増強し内科への要求も大きくなると考えられる。今回、内科と他の診療科との共同診療の状態を把握するため、平成11年度1年間の、各診療科から内科に送られた紹介状393件を対象に、各科の内科への診療要求状況を検討した。

紹介数は循環器科(30%)、泌尿器科(11%)、外科(9%)、脳神経外科、皮膚科、産婦人科、その他となっており、必ずしも各科受診患者数の多少と一致していない。疾患としては、糖尿病、高血圧、消化管関連、肝疾患など一般的に多いものの割合が各科多いが、循環器科で消化管出血関係の紹介が比較的多くを占める事や、眼科は糖尿病が半数のほか高血圧、甲状腺と疾患種が少数など、科特異的な状況も見られた。今回の成績を踏まえ、各科に合わせた対応を整える必要がある。

キーワード：院内紹介、病診連携、関連疾患

療科別紹介件数、各科紹介目的別件数に分け検討した。

はじめに

医療法改正のもと平成12年度、当院では急性期型地域医療支援病院をめざして、院外各医療機関との関係を密にし、病診連携の充実を図っている。それに並行して院内でも、総合病院の特性を生かして、各診療科との連携、協力により、良質な医療を提供するよう努めるとともに、合併症等の早期治療に当たっている。その中において内科診療の領域は広く、各科、各部門との関連疾患も多く、その協力体制が十分であることが要求される。そこで今回各診療科と、内科との連携の状態を把握するため、内科外来に紹介された患者の実態と傾向を、院内紹介状を分析する事により調査したので報告する。

対象及び方法

平成11年4月1日～平成12年3月31日までの一年間で、内科外来に紹介されたすべての患者393名を、診

結果及び考察

診療科別紹介件数では、循環器科からの紹介が圧倒的に多く119名で、全体の30%を占めている。次いで泌尿器科47名で11%、外科36名で9%その後脳神経外科、皮膚科、産婦人科が33名及び32名で8%、続いて眼科、整形外科、耳鼻科の順となっている。(図1) この数字は、調査期間での外来患者延数累計報告の、科別の数(図2)と比較してみると、内科を除いて循環器科が最多であるが、あとは整形外科、耳鼻科、眼科、外科、小児科、皮膚科、泌尿器科、脳神経外科の順となっており比例せず、内科と関連の多い科と少ない科があることがわかった。

次に紹介目的別に見ると、循環器科では、腹痛、嘔吐、下痢等消化器症状を訴え紹介されたものが31名で最も多く、次いでDMが24名、下血、便潜血陽性が14名、貧血10名の順となっている。また下血、便潜血陽性、貧血、大腸検査依頼も消化管関連として消化器

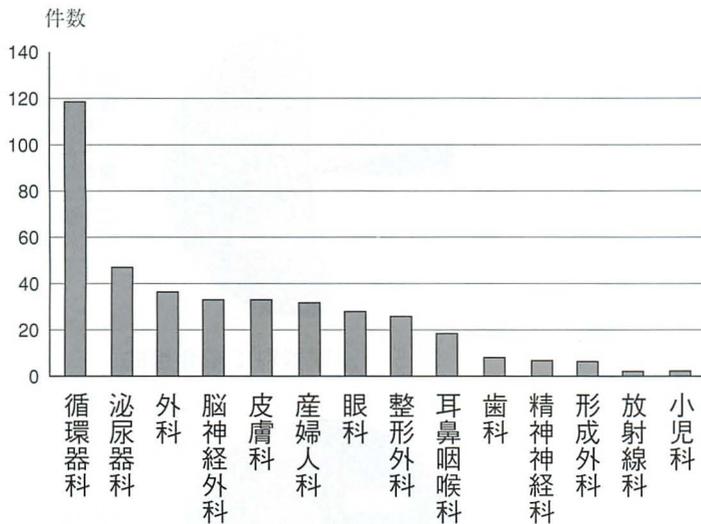


図1 内科への紹介件数

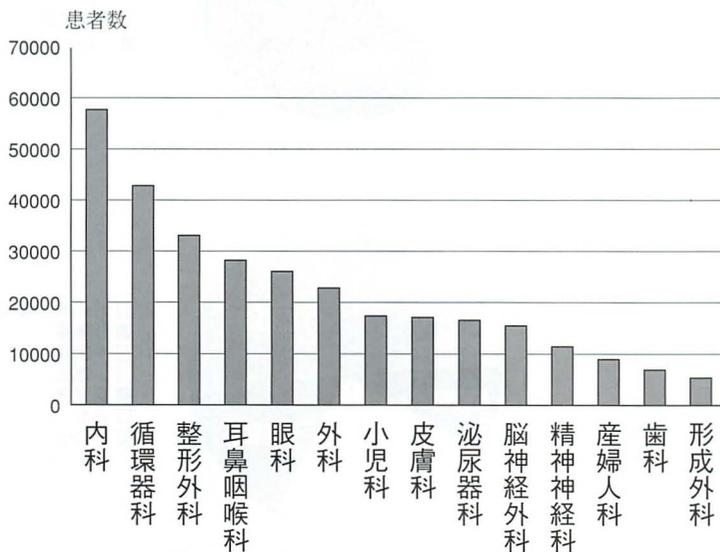


図2 H11年度外来患者延数累計

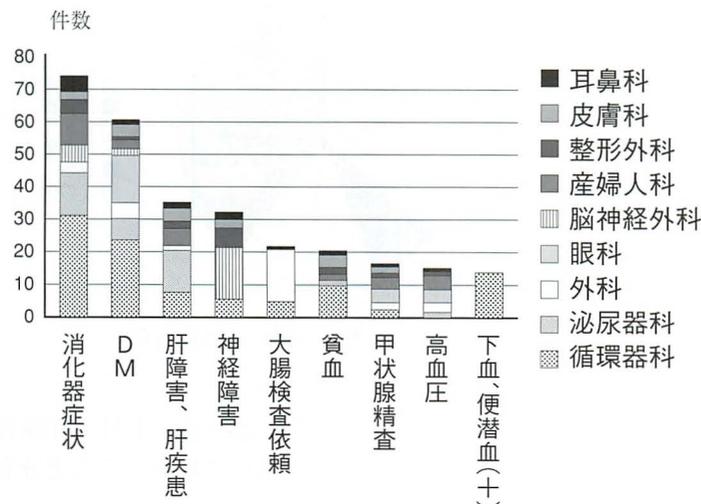


図3 各科疾患別紹介件数

症状に含めると、50.5%で全体の半数を占めている。更に下血、便潜血陽性、貧血の出血関係はそのうちの半数を占めている。この理由としては虚血性心疾患や、その他の血管病変に使用する、ワーファリン等、薬剤の影響による出血が関与したものと考えられる。次にDMに関しては、循環器疾患の原因の一つでもあり、そのため紹介件数が高い数値を占めていると考えられる。

泌尿器科では、腹痛、下痢、便秘等の消化器症状が最多で13名、次いで肝障害、肝疾患12名、DM6名、発熱精査4名の順であり、内科で扱う一般的な疾患分布の多少に一致するものである。

外科では下血、大腸内視鏡等検査依頼が16名で全体の44.4%を占め、次いでDM、高血圧、腹痛の順で13.9%~8.3%となっている。これは、下血、大腸検査を先ず外科へ受診したという、科の選択ミスや、術前検査目的の内視鏡依頼というものが多かった為と考えられる。科の選択については、総合案内での、適切な科への案内を検討する必要がある。

眼科では、DMが圧倒的に多く全体の50%を占め、そのあと高血圧、甲状腺精査、その他の順となっている。いずれも、全身性疾患の分症として眼症状を呈したものである。また比較的紹介疾患種が少ない上に、ほとんどがDMによる紹介という眼科特有の結果となった。これは、自覚症状として眼症状で受診した際、DMを指摘される場合や、術前のコントロール目的による紹介が多かった為と考えられる。

脳神経外科では、神経障害、運動障害が全体の45.5%を占め、次いで腹痛、嘔吐等消化器症状が18.2%となっている。また整形外科でも、四肢等の運動障害が23.1%で最多、次いで消化器症状、貧血、肝障害の順となっている。共に神経内科との共通領域である神経障害、運動障害が高い件数という特徴的な結果となり、神経系疾患の、内科と脳神経外科、整形外科との連携を表している。

その他各科の紹介目的別件数は図4~図11の通りとなっている。

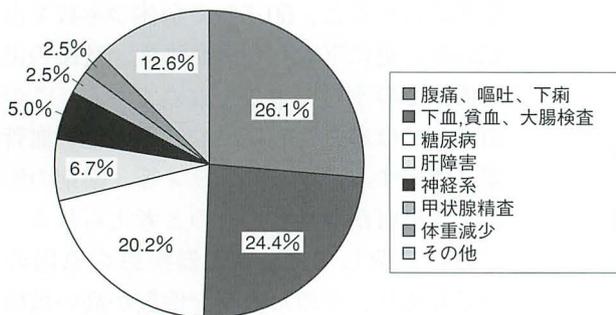


図4 循環器科：紹介目的

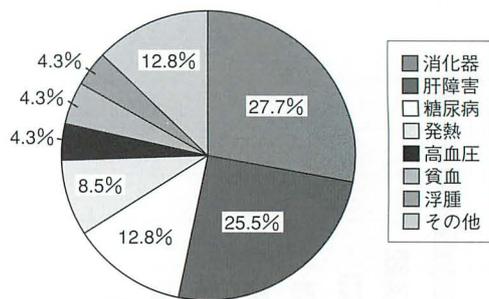


図5 泌尿器科：紹介目的

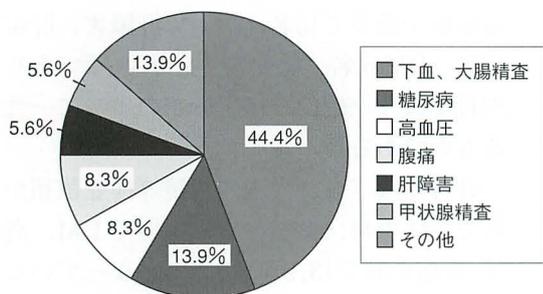


図6 外科：紹介目的

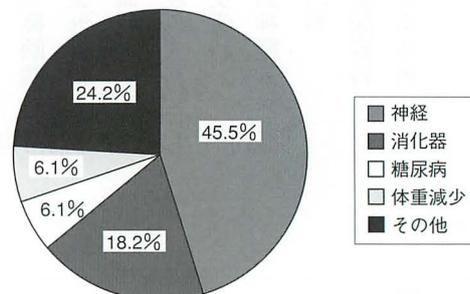


図7 脳神経外科：紹介目的

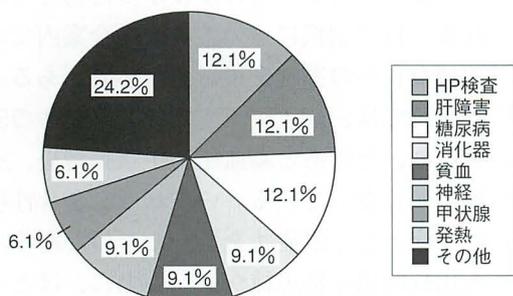


図8 皮膚科：紹介目的

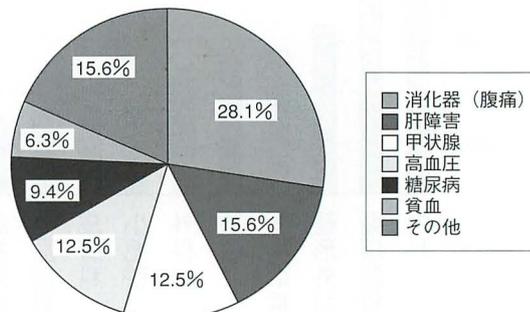


図9 産婦人科：紹介目的

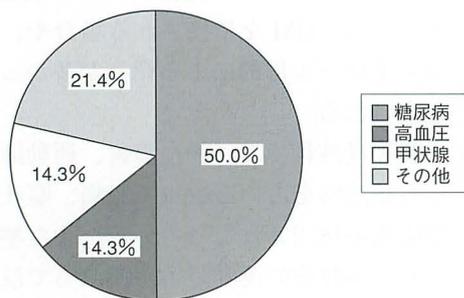


図10 眼科：紹介目的

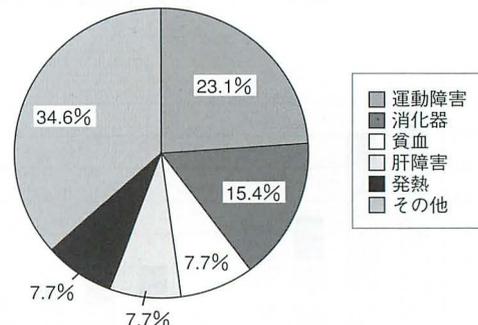


図11 整形外科：紹介目的

まとめ

1 循環器科からの紹介件数が全体の30%を占め、次いで泌尿器科11%、外科9%、脳神経外科、皮膚

科、その他の順であった。

2 診療要求の内容は、消化器症状、DM、肝障害などが最も多く、一般に内科で取り扱う疾患分布に一致している。(図3)

3 循環器科は消化器関連(消化管出血)、外科は下

血、大腸検査依頼、眼科はDM、脳神経外科、整形外科は神経系疾患等が最も多い紹介例で、各科によって特徴的な傾向がある。

おわりに

今回の調査では、各診療科より内科に紹介された疾患として、消化器症状、DM、肝障害、肝疾患等、一

般的に内科領域で多いとされているものの紹介件数が当然ながら多かったが、科によっては幾つかの特徴的な傾向が見られ、その実態を把握することができた。また、年齢構成を考えた紹介疾患例の検討をすれば、更に有意義な成績が得られる可能性があり、母集団を多くし次回検討したい。今後各科に合わせた対応を整えると共に、各診療科間の連携を更に強化していくことが重要であると考えられる。

The Actual State of Referral Patients to the Outpatient Section of the Division of Internal Medicine from Various Divisions in Our Hospital

Kimiko OZAKI¹⁾, Jyunichi NAGATA²⁾, Kinuyo HIROOKA¹⁾, Nobuko SAITO¹⁾
Sachiko MINAMIMOTO¹⁾, Kayoko YUUKI¹⁾, Harumi TADA¹⁾

- 1) Outpatient Clinic, Division of Internal Medicine, Komatsushima Red Cross Hospital
- 2) Division of Internal Medicine, Komatsushima Red Cross Hospital

While our hospital is rapidly promoting cooperative examination with medical organizations outside the hospital, at the sametime, close cooperation with various divisions in the hospital seems to be necessary.

Especially, it is considered that the present state in which aging of the patient population is advancing and many patients are examined at various divisions because of two or more diseases will go on further. Demands to the Division of Internal Medicine will also increase. In the present study, we examined the state of requests for examinations at the Division of Internal Medicine for 393 referral patients sent from various divisions in 1999 to grasp the state of cooperative medical examination and treatment between the Division of Internal Medicine and other divisions.

The referral patients were sent from the Division of Cardiology (30%), Urology (11%), Surgery (9%), Neurosurgery, Dermatology, Obstetrics and Gynecology, and others. They did not necessarily agree with rates of patients examined at the respective division. Concerning diseases, those occurring frequently in general such as diabetes mellitus, hypertension, gastrointestinal diseases and hepatic diseases occupy higher ratios in all divisions. However, division-specific situations were found: relatively high ratio of referral patients with gastrointestinal bleeding in the Division of Cardiology, half of the referral patients had diabetes mellitus and there were a small number of diseases such as hypertension and thyroid disease in the Division of Ophthalmology. It is necessary to provide appropriate measures for each division based on the results of the present study.

Key words: outpatient section in the Division of Internal Medicine, cooperative examination and treatment among division

Komatsushima Red Cross Hospital Medical Journal 6 : 118-121, 2001
